



## 国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



## 宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

## 目次

1. 巻頭言
2. 令和3年度 開放型登録医療機関紹介
3. リニューアルした CT 装置の紹介
4. 4階病棟七夕行事
5. 児童精神科病棟開棟、5年目を迎えて
6. 編集後記

## 巻頭言 コロナ禍第4波の終息と踊り場の今

新型コロナウイルスの第4波が終息した。宮崎県はこれまでに4月、7月、11月、4月と波状の流行を経験した。やや第3波が大きく、第4波は感染者数に比較して重症者が少なかった。療養先も自宅やホテルが多かった。

2月にワクチンが始まり、7月1日時点で、全国で1500万人が2回の接種を終えた。7月3日には宮崎県の65歳以上の高齢者の43.7%が2回接種を終えた。国は7月末までには65歳以上の高齢者の接種が終了する見込みとしている。

国も宮崎県も復興へと意識が向いているように見える。7月23日開催のオリンピックの準備が進み、既に7月2日には当県へも欧米からの選手団が来県した。「国文祭・芸文祭みやざき2020」や宮崎国際音楽祭も開催される。7月中にはワクチン接種証明書が発効され、国際間の往来が強化される。社会に活気が戻るのは楽しみなことである。

問題は、この回復が順調に進むかどうかである。活動が活発になれば感染機会が増える。東京都、韓国、イギリスで感染者数は増加に転じている。7月8日には東京都に再度の緊急事態宣言が発出されるというニュースが流れた。ワクチン接種による集団免疫獲得にもまだ暫しの時間がかかると言われている。

当院はこれまで院内感染・クラスター発生を免れてきた。関係者のたゆまぬ努力のおかげである。また県内の施設クラスターに対しては認定看護師さんを派遣し各地の感染対策を指導してきた。兵庫県の重症病床逼迫に対しても看護師さんを派遣した。このような努力が水泡に帰して欲しくない。

産業界は経営の復興に関心がある。医療界はあくまでも社会が回復し維持されていく最中に、その社会を支えることに重きを置く。

最後の最後まで気が抜けない。この実績や努力をさらに繋いで行くことが大事だ。国民も、県民も、病院もまだまだ忍耐力を試されている。



院長  
塙屋 敬一

# 令和3年度 開放型登録医療機関紹介

## 松浦みみ・はな・のどクリニック

院長 松浦 宏司 先生

〒880-0921

宮崎市大字本郷南方 2475 番地 1

TEL : 0985-56-8717 FAX : 0985-56-8741

標榜診療科 : 耳鼻咽喉科、アレルギー科



宮崎市本郷南方で「松浦みみ・はな・のどクリニック」を開業している松浦宏司です。当院は宮崎空港から旧青島街道の県道を南下して、国富（くどみ）小学校近くの田園地帯が周囲に広がるのどかな場所に位置しています。

私は宮崎医科大学の8期生で、卒業後は大学病院や関連病院勤務を経て、2008（平成20）年に開院しました。耳鼻咽喉科ならびにアレルギー科を標榜して一般耳鼻咽喉科、小児耳鼻咽喉科、補聴器外来など日々の診療を行っています。

宮崎東病院には開業当初より大変お世話になっております。特に呼吸器内科の先生方には診断や治療に苦慮した患者さんの診療をお願いすることが多く、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。実は脳神経内科の斉田先生は高校時代の同級生、児童精神科の橋口先生は大学時代の同級生で硬式庭球部でも一緒でした、また腫瘍内科の森山先生もまた硬式庭球部の後輩であり、他にも県内の病院で一緒に働いた機会のある先生もおられ、浅からぬご縁を感じているところです。

開業して13年経過しましたが、日々多様な患者さんが来院され、あらためて勉強させられることが少なくありません。アレルギー性鼻炎や花粉症はいまや国民病と言われるほど罹患率が高くなってしまい低年齢化も進んでいます。また、アレルギー性の副鼻腔炎や咳喘息のような症例も増えています。当院としても重症の鼻炎に対しては通常の薬物療法に加えて舌下免疫療法や下鼻甲介切除術を行い、またいびきや睡眠時無呼吸症候群が疑われる患者さんには自宅での検査やその後のCPAP治療と管理を行うなど、診療所として出来る範囲で対応できるよう心がけています。しかし診断方法や治療方法が多様になったこともあり、最新の知見や薬剤の選択などアップデートするのに日々苦勞しています。年齢的に気力や記憶力の低下も否めません。そんな時に宮崎東病院のような紹介患者を快く診療していただける医療機関があるのは大変心強いです。当院も耳鼻科診療所として連携の一環を担えればと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



### ※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成16年9月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入院診療への不安が軽減されます。現在、104医療機関の先生方にご登録いただいております。



# リニューアルされた CT 装置の紹介

2021年3月にX線CT装置の更新を行いました。Canon社のAquilion primeSP装置



です。これまでは、16列CT装置を使用していましたが、今回、80列CT装置の導入になりました。

この装置の最大の特徴は、80列により高速撮影ができ、胸部から骨盤部までの撮影がこれまでの30秒前後から10秒前後と1/3に息止め時間が短縮され、息止めの困難な患者さんの撮影が可能になりました。

また、画像再構成の新しい技術も組み込まれており、従来のCT装置に比べ、半分以下の被ばく線量で診断精度の高い検査が可能になりました。更に病変部をより明確に描出するための造影剤を使用する検査では、造影剤使用量の減量が可能で腎機能の低下した患者さんなど、あまり造影剤を使用できないような方でも造影検査可能となります。今回は、コロナ患者撮影用としても導入されましたので、検査室内は陰圧室になり、室内換気を30分ほどする事で、使用可能になりました。



放射線技師  
柿木 正浩

今回入された最新CT装置を最大限に活用し、低侵襲かつ診断精度の高い検査を提供できるよう日々努力し、地域住民の健康を守り、豊かな暮らしに貢献してまいります。今後とも宜しくお願い致します。

## 4階病棟 七夕行事

7月5日と7日の2日間で、当院4階療養介護病棟において七夕の行事を行いました。彦星、織姫に扮した職員と共に居室をまわり、ハンドベルでの演奏《たなばたさま》を聴いていただきました。(中には、ご自身でベルを持たれ、音を鳴らされる方も・・・)

現在コロナ禍で、利用者さまがご家族との面会ができない状況が続いています。そこで、今回事前にご家族へ短冊をお送りし、利用者さま宛のメッセージを書いていただきました。



当日ベッドサイドで短冊をみていただきながら、読み上げると、笑顔や涙、みなさんとてもよい表情をされていました。

まだまだ先の見えない状況ではありますが、利用者さまへ、できる限りの楽しみや四季の変化など行事を通して提供していきたいと思っております。



保育士  
井上 栄子



# 児童精神科病棟開棟、5年目を迎えて

宮崎県内唯一の児童精神科病棟が平成29年4月に開棟してから、5年目を迎えました。当院の児童精神科病棟では心理療法士が3名（常勤2名、非常勤1名）勤務しています。病棟専従が1名、それ以外の心理療法士は外来や別の病棟の患者様への支援にも携わっています。

入院の主な対象は、自閉スペクトラム症やADHD、気分障害、摂食障害などの子ども達です。これらをベースとした不登校やゲーム依存の子どもも多くいます。入院後は隣接する赤江まつばら支援学校と連携し、学習保障を受ける子もいます。

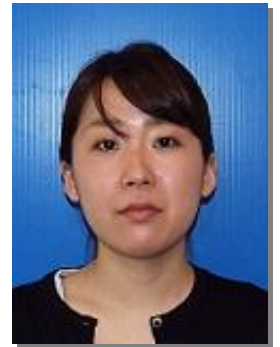
心理療法士の業務は主にカウンセリングや子どもの状態を評価・アセスメントするための心理検査、対人スキルを学ぶ場としてSST（ソーシャルスキルトレーニング）などのグループがあります。今回は、今年度の新しい心理の取り組みについてご紹介したいと思います。

子ども達と行うカウンセリングの一つにプレイセラピーがあります。プレイセラピーでは安全な環境の中で遊び道具を使い、遊びを通して子どもの内面的な自己表現を促します。今年度はプレイセラピーで使用するおもちゃが増え、より遊びを通して心の表現をしやすい場作りができるようになりました。

また、SST以外にも初めて芸術療法の一つであるコラージュのグループを作りました。グループでは色々な作品を通して子どもたちが自分を表現してくれると共に、コラージュを通して自分の好きなことが友達に認められる姿が見られ、コミュニケーションが苦手な子も自然と楽しく話せる居場所としての機能も持つグループに成長しました。

開棟してからこれまでを振り返り、入院する子どもを支援しながらも、自分も鍛えられ、学び、病棟のスタッフと一緒に試行錯誤しながら日々乗り越えてきたように思います。そのような日々の中で、なんでも投げやりだった子どもが粘り強さを見せてくれた瞬間や、暗かった子どもの表情に元気が戻ってきたと感じる瞬間、「難しいだろうな」と思っていたことを子どもがやり遂げている姿を見たとき、退院してから地域で元気に暮らしている様子を聞いた時、挙げればキリがありませんが、子ども達の見せてくれる様々な姿が私に多くの事を学ばせてくれ、自分も元気をもらっている気がします。

自分の力量がもっとあればと力不足を感じることも多いですが、病棟のスタッフと協力しながら心理士として子ども達の役に立てるよう、今後も努力していきたいです。



心理療法士  
春山 みさき



## 編集後記

4月より当院に赴任したのですが、ここまで初めて行う業務への焦りと多くの学びがありました。また、市中の新型コロナウイルス感染症は未だ収束の兆しを見せず、未だ様々な事柄で自粛が必要になる毎日で疲れを感じることがありますが宮崎の温暖な気候と豊かな自然、そして皆さんの人柄の良さに癒され、心地よさを感じます。（編集委員 Y）